

## GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用)

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	たかつ ひろし	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	高津 浩	D3	前野 悦輝
Tel,Fax e-mail	Tel: 075-753-3744 (Fax: 075-753-3783) takatsu@scphys.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	Magnetization and its Relation to the Anomalous Hall Effect in the Metallic Triangular-Lattice Magnet PdCrO <sub>2</sub>		
著者名	H. Takatsu, S. Yonezawa, C. Michioka, K. Yoshimura, Y. Maeno		
会議名称 ・開催期間	The International Conference on Magnetism 2009 (ICM 2009) 自 2009年 7月 27日 ~ 至 2009年 7月 31日		
開催地 (国、市)	Germany ・ Karlsruhe		
出張期間	自 2009年 7月 22日 ~ 至 2009年 8月 1日		
国別参加者数	約 1,600 人		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p>【発表内容】二次元三角格子磁性体の中でも非常に珍しく導電性が実現する PdCrO<sub>2</sub> の Hall 効果について、磁化や電気抵抗率の基本的物理量と比較して、その異常性について報告した。更に、異方的導電性や反強磁性転移以後に現れる磁化率の異方性、単結晶の育成に世界で初めて成功した成果についても報告した。また、会議前にはケルン大学にて 30 分間の口頭発表も行った。</p> <p>【聴衆の反応】 幾何学的にフラストレートした金属磁性体におけるスピン揺らぎやフラストレート磁性スピンと伝導電子の相互作用は、基本的テーマでありながら、未だに明らかにされていない部分が多い。そのため、実験・理論を問わず多くの研究者の方が本発表に興味を持って耳を傾けてくださった。最近の研究の成果論文をポスターパネルの脇に、自由に持っていけるようにしていたところ、発表の途中には全てなくなり、本研究の注目度が高いことを肌で感じた。</p> <p>【質疑応答】 英語での質疑応答ではあったが、コミュニケーションをとる上では、それほど問題にはならなかった。相手が言っていることが分からない場合には、もう一度聞き返すことを心がけ、深く議論することができたと思う。特に先年の HFM2008 で理論家の方とあまり議論を深められなかった反省点を生かし、本会議では、多くの理論家の方と研究の内容や今後の研究テーマなどについて積極的に議論することができた。</p> <p>【その他】 国内外の研究者を問わず自らの研究について活発に意見交換することができた。自らコミュニケーションをとることを心がけることによって、今後の研究活動に指針を与える有益な議論をすることができたと思う。</p>			